

活動例3〔学び ― 興味・関心 ―〕 2歳児 2学期

『戸外遊び ― 三輪車 ― 』

育てたい力

- ・いろいろな動きをし、遊ぶことを楽しむ力
- ・自然物の様子に気付く力
- ・感じたことを言葉で伝える力

経験させたい内容

- ・保育者に見守られる安心感の中で自分の思いを表現する。
- ・いろいろな自然物、感触の物との触れ合いを楽しむ遊ぶ。
- ・保育者や友達と好きな遊びを繰り返し遊ぶ。

2歳児 9月 事例

〔クラスの実態〕

- ・男児10名女児8名計18名。健康的で戸外遊び、散歩が大好きな子供たちである。
- ・戸外では、ジャングルジムやすべり台での遊びや三輪車を好み、全身を動かした遊びを楽しんでいる。
- ・また、砂や草・葉を使い、いろいろな食べ物に見立てたご馳走作りなどの、ごっこ遊びを繰り返し楽しんでいる。

〔指導や環境の工夫〕

- ・体を自由に動かし遊べるようになってきているが、自分のやりたい思いと、実際に出来ることとのギャップがあり、怪我をしやすい時期なので固定遊具の遊びでは、傍にいて安全な使い方を伝えたり、見守ったりする。
- ・見立てたりイメージしたりしたものが、友達と共有できるように、保育者は形を作ったり言葉で伝えたりする。

〔エピソード〕『わぁ～気持ちいいね!』

A男・B男・C男が、園庭で三輪車を乗り回して遊んでいた。走り回って大きな桜の木の下で止まり、ハンドルを背もたれにして足を伸ばして三輪車に座り「あつい、あつい」と、三人それぞれに、手で仰ぎ風を顔に当てていると、木の葉が揺れて風が吹いてくる。

A男「ワァ～きもちいい」 B男「クーラーだ、ピッ!」と木の幹に指を当てて、スイッチを入れる真似をする。

C男も、B男の真似をしてスイッチを入れる。

B男「せんせいおいで、きもちいいよ!クーラーいれたから」

保育者「わぁ～きもちいいね」と、子供たちの言葉を受け入れ気持ちのいいしぐさをすると、B男「ほらね、すずしいでしょ」と三人と保育者で笑い合い、A男・B男・C男は、順番にしばらくスイッチ押しを繰り返し楽しんでいた。



予想される活動例

- ・散歩
- ・砂、泥んこ遊び
- ・みたて遊び

〔3歳児へのつながり〕

- ・保育者や友達と好きな遊びを繰り返し遊ぶことで、生活経験したことを模倣して遊ぶ力になっていく。